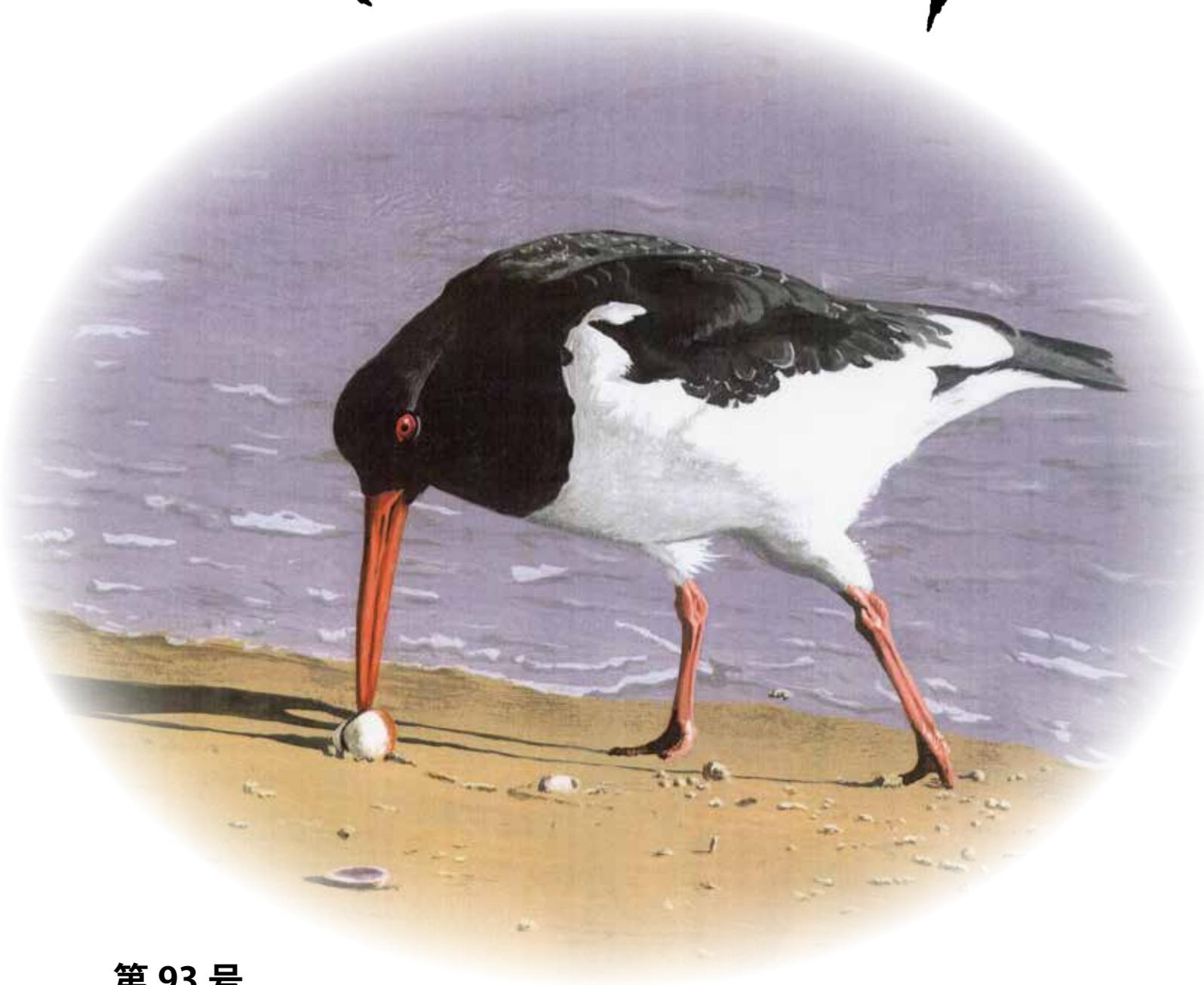


川あせちし



第 93 号

2017 年 9 月

日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>

「足見川臨時探鳥会」報告

四日市市 安藤 宣朗

”サシバやオオタカが舞う里山が危ない”
四日市市内にわずかに残された貴重な里山に95haに及ぶ大規模な太陽光発電（メガソーラー）の建設が計画されている。この計画地は、市の西南部を流れる足見川に沿った丘陵林で、サシバの繁殖やオオタカ、チョウゲンボウなど猛禽類が生息しており、環境破壊すべきではない。当会では、地元の方々や団体と共同で事業者や県・市に対し、建設中止運動を展開している。

今回、こんな素晴らしい足見川の里山を散策しながら、貴重なサシバなど野鳥の生息する環境を実感し、自然の大切さを知って頂くために2017年6月18日臨時探鳥会を開催した。

前日、中日新聞や毎日新聞でこの探鳥会が紹介された事が幸いし、地元の方や県内外から40名を超える参加者があった。京都から足を運んで頂いた方もあり、主催者としてうれしい限りでした。



足見川臨時探鳥会の様子

蛇行する足見川の堤防沿いに約2時間ほどゆっくりと散策した結果、田圃にはゴイサギなど数種のサギ類やケリ、セッカ、ホオジロなど、川面には、カワセミ、カルガモなど、橋の裏側にコシアカツバメが徳利型の巣を行き来していた。そして今日のお目当てのサシバが丘陵林に現れたり、上空を旋回、さらに私たちの願いを察したか？のごとく目の前に現れその優雅さを披露してくれた。

市街地の近くでありながら丘陵林、田んぼ、小川の3拍子がそろった里山は、生物多様性をはぐくみ、食物連鎖の頂点にあるサシバ（猛禽類）が生息できるすばらしい環境であることを全員が実感出来た価値ある探鳥会であった。

会員以外の方々が多数参加頂いた事に感謝するとともに、建設中止に向けて継続して活動していきますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

目次

「足見川臨時探鳥会」報告	2
表紙の言葉	2
「足見川臨時探鳥会」に参加して	3
「足見川臨時探鳥会」の思い出	3
チョウゲンボウの営巣	4
チョウゲンボウの長さ	5
木曾岬干拓地のさらなる開発の危険	6
チュウヒサミットのご案内	7
宿泊探鳥会・木曾御嶽山麓と田の原天然公園へ	8
事務局だより	9
シギ・チドリの年齢・季節による羽衣の変化	10
鈴鹿市主催探鳥会の記録	14
追加探鳥会	15
今後の探鳥会予定	15
野鳥記録	17
探鳥会報告（2017年5月～8月）	20
しろちどり 92号の記載の誤りについて	24
編集後記	24

表紙の言葉

ミヤコドリ

名張市 田中 豊成

ご存じのように、安濃川河口や雲出川河口とそれを挟む海岸に越冬する鳥です。赤、白、黒の色彩がマッチした非常に綺麗な鳥だと思います。冬季には県の内外から、ミヤコドリの観察に多くの人達が訪れます。それほど魅力があるのでしょうか。

三重県内では年ごとに増加しており、今年の冬の調査では138羽だったと聞いております。このことは、津市の河口や海岸には、餌である貝が豊富にあるからだと思います。それに加えて、地域の関心ある人達の優しい接し方により、ミヤコドリは安心して越冬できるのではなかとと思います。他の鳥もそうですが、益々数が増えて美しい姿が見られることを期待しています。

「足見川臨時探鳥会」に参加して

「足見川メガソーラーから里山を守る会」
西垣 博充

探鳥会の現場は、小林町・山田町・波木町の三町にまたがる広大で、豊かな丘陵林が広がっています。その山のふもとに沿って流れる川が足見川です。ここは、『四日市足見川メガソーラー事業』（約95ha・東京ドーム約20個分）の計画地となっています。私は、この計画を阻止したく活動しております。

今回お誘いをいただき、実際に川沿いの里地を歩きいろいろな野鳥を見せていただきました。ここには驚くほど多数の野鳥が生息しているそうです。中でも毎年インドネシアから渡って来て、この山に巣をつくり、子育てをするサシバのつがいを今年も見れるのかドキドキしておりました。というのも獣害とされるイノシシやサルを檻に追い込むためのドンドンと大きな音のする花火をならしてると聞いていたので、おびえて来てくれないんじゃないかと心配していましたが、この里山で、営巣し悠々と翼を広げて飛んでいるサシバを眺めることができホッとしました。会員の方から、サシバは川周辺の畑、水田を餌場にしている、

こういう場所でないと生きられないのだとお聞きしました。

メガソーラーの業者は少しだけ森を増やしたが、それだけではサシバは暮らせません。パネルの害だって計り知れない。羽があるから、開発してもどこかに飛んでいこうという考えだろうが、それは違う、サシバは、住環境に適していると判断したからここに決めたのです。こうやって棲みかを奪い、絶滅危惧種を増やしているのは誰なのでしょう？

ある住民の方が、この山の稜線が気に入って家を建てたら、目の前がパネルの山になるかもしれないという、「これを毎日見て暮らすなんて嫌だ。」またある人は、「パネルの山は、景観という問題ではない「異様」だ。先祖に申し訳ない」と言っておられたと聞きました。

最近、予想外の大雨が降ります。開発による土砂崩れや洪水、防風林がなくなることによる突風、砂ぼこりなど不安に思っている住民も多いのです。住民やサシバや他の生き物が安心して暮らせるために、このかけがえのない里山里地を残していけるようこれからも活動を続けていきたいと思っております。

探鳥会を開いてくださって感謝いたします。

「足見川臨時探鳥会」の思い出

日本野鳥の会京都支部 大橋 真弓

「里山が全てソーラーパネルで埋め尽くされる」というショッキングな発表を目にし、どういふ事なんだろうと内心モヤモヤしていた処に、臨時探鳥会のお知らせがあり参加しました。

近鉄・三重交通のバスと乗り継いで、降りたバス停は、のどかな景色が広がる田園地帯。足見川に沿って穏かな起伏の地道を歩いていくと、ゆったりと田んぼが広がった先に、自然林が周りを取り囲んでいて、三重県って、なんて穏やかで気持ちのいいところなんだろうと、気分もまったりと少々眠くなってきそうです。でもそんな中、その自然林が破壊されたら、一体どこで暮らしている生き物たちはどうなってしまうだろう？と、ふつふつと疑念がこみ上げてきます。説明しておられるリーダーさんを尻目に、最後尾であちらこちらをうかがっていると、ホオジロの声が至る所から聞かれます。ケリもあぜ道から首を出したり



メガソーラー建設予定地に営巣するサシバ

引っ込めたり、サシバもあちらの山からこちらの山へと何度か往復をして健在な処を見せてくれ、小川ではカワセミの幼鳥らしき姿もちらりと目の隅をかすめ、コシアカツバメが橋の下側に営巣しているらしく飛ぶ姿を何度も目にしました。

歩いている間に、モヤモヤはカッカに変わって来ていました。こんな素晴らしい里山を皆さんの署名で、何とか守れないものか！今はそんな気持ちでいっぱいです。

チョウゲンボウの営巣

四日市市 笹間 俊秋

今年、2017年6月10日、11日に野鳥の会三重の宿泊探鳥会が行われ私も参加してきました。その帰りに近鉄四日市駅から路線バスに乗り換え自宅へと向かっていると国道1号線の四日市南警察署前に差しかかると、いつもの様に渋滞。いつ抜けられるかと思ひながら車窓から三重県庁四日市庁舎（以後、「庁舎」と表記）のビルを何となく眺めていると上空をカラスが飛んでいるのが目に入り、その後ろを追いかける様に飛ぶハトの様な鳥がいるのに気が付きました。そして突然その鳥がカラスに対してモビングを仕掛けたので、よく見てみるとチョウゲンボウでした。チョウゲンボウは執拗にカラスを追いかけ回していたので、この周辺に何かあるのであろうと推測されました。



そこで思い出されたのが、今年の宿泊探鳥会で石川支部の方に紹介していただいたハヤブサでした。そのハヤブサは石川県庁に営巣しているとのこと。高いビルや大きな橋の鉄骨にハヤブサ類が営巣するという話はよく聞かれます。今、私が見た状況をよく考えてみると庁舎のビルの上には高い防災用のアンテナが立っており、そこからの見晴らしは抜群に良く、ビルの周辺は広い駐車場で建物が密集していません。そして川を挟んで南側は中央緑地公園が広がっており狩場としては最適です。ここでチョウゲンボウが営巣しているのであろうと容易に推測できました。しかし今はバスの中です。降りてすぐに確かめに行きたかったのですが、もう夕方6時になっていましたので後日確かめに行くことにして、とりあえず友人にチョウゲンボウがいるので営巣しているかもしれないと連絡しておきました。

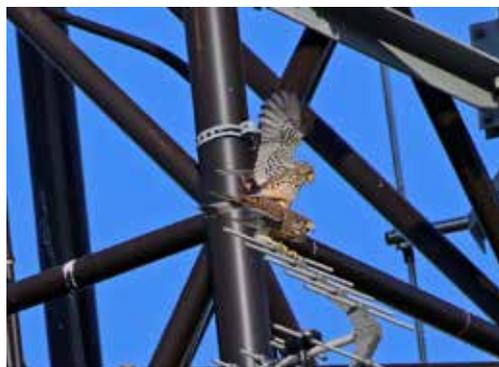
すると次の日の夜、連絡していた町内の友人からメールが入り私の予想通りチョウゲンボウの営巣が確認されました。しかも2つがいもいて交尾まで確認出来たと言うのです。さすがに2つがいもいたとは予想外でした。翌朝6時に私も現地まで行って確認することにしました。

翌日（13日）庁舎へ行って見るとビルの東側

の中ほどの階に換気扇カバーが並んでおり、そこに2つがいのチョウゲンボウがいました。ずっと抱卵している訳ではありませんでしたが、屋上のアンテナにとまり交尾している姿も確認できましたので営巣していることは確かです。ただ、ヒナ、あるいは幼鳥については確認することができませんでした。



庁舎の警備員や職員の方に聞くと、「毎年トイレの換気扇周辺でこの時期に鳥の大きな鳴き声が聞こえてくるので、ハトか何かが入り込んでいると思う。それに他の職員達から鳥の声がうるさいと苦情も出るため窓から届く範囲は網を取り付けた。しかし、高い部分には取り付けることは不可能なので完全に防止出来ずにいる」とのことでした。しかし、そんな場所でハトが営巣とは考えられないので、チョウゲンボウが毎年ここで繁殖しているを見て間違いないと思います。ある職員の方は数日前に小さな幼鳥がビルの下でうずくまって怪我をしていた様なので、関係部署にどうしたら良いか聞いたところ「手を貸さずに自然のままにしておいてください」と指示を受けたそうです。その後幼鳥がどうなったかは不明でした。



<最後に>

庁舎では午前7時過ぎには職員の方がぞくぞくと出勤してきます。日中は庁舎に手続きに訪れる市民の方も多く、窓から職員が忙しく働く姿が確認できます。そこへ望遠カメラを向けて撮影することはマナーに反します。また、盗み撮りする不審者に間違われることにもなります。おまけに隣は警察署ですので通報されると逃げる間もなく職務質問を受けることになるでしょう。これを見て来年観察しようと思った方は早朝か休日の方が少ない時に節度を持って静かに観察していただきたいと思います。

チョウゲンボウの長さん

～動物病院に保護されたチョウゲンボウの若鳥～
四日市市 三曾田 明

四日市新庄にある三重県四日市庁舎にチョウゲンボウが営巣しているということを聞いたので、「誰か目撃している人はいないか」とネットで検索してみると「チョウゲンボウを保護しています」というタイトルのブログを発見。しかも、日永ということで庁舎からは車で10分程のところ。これは、関連があるかと取材を申し込んでみました。

取材した日は6/22。日永動物病院の先生に「チョウゲンボウの長さん」についていろいろ伺いました。

長さん（ブログで「長さん」と呼ばれていたのでここでもその呼び名で書くことにします）は写真のとおり、チョウゲンボウの雄。胸に不規則な太い縦斑がありまだ幼く、右の翼は正常な位置に折りたたむことができないようです。

保護の経緯

5/21 羽津北小の辺りで保護。畦道でカラスに襲われていたらしい。

5/26 三重県の四日市農林事務所から三重県獣医師会を通じて、日永動物病院に持ち込まれた。

あれ!?, 三重県四日市庁舎のチョウゲンボウでなかった。でも、持ち込んできた担当の人は三重県四日市庁舎の四日市農林事務所の人と、なんだか微妙なすれ違い。

ケガの様子と食事

ケガは右翼の骨折。レントゲン写真を見せてもらうと、人間の上腕の肘の少し上あたりの太い骨がポッキリと折れている。しかも、大きくずれた



長さんのレントゲン写真



保護されたチョウゲンボウの長さん

状態・・・。

日永動物病院の先生によると、全身麻酔をかけて正常な位置に戻そうと試みただけで、正常な位置には戻せなかった。命に係る長時間の麻酔がかけられないので治療は断念されたということでした。

野生の鳥が何を食べているのか疑問だったので聞いてみると、「うずら、マウス、鶏肉」、鶏肉はスーパー等で売っているものだけれど「うずら、マウス!」。これらはペットショップで冷凍されたものを売っているのだそうです。なるほど・・・。

三重県に野鳥の保護施設がない

以前、しろちどり90号で紹介した釣り糸に絡まったフクロウは久居の獣医さんのところへ持ち込まれた夜に絶命したとのことだったので、それに比べれば餌を食べることができるほど回復できたのは良かったとも言えます。ただ自然復帰ができないとなると、長さんはどうなるのだろう・・・。このまま日永動物病院に居候するしかないようです。

隣の愛知県には愛知県弥富野鳥園という施設があり、ケガをした野鳥の保護もしてくれます。自然に復帰できない場合、獣医さんでもどうしようもないと思います。そういった施設が三重にも欲しいと思いました。

今回お世話になった日永動物病院の URL 情報を記しておきます。ブログの方にはときどき長さんの様子がアップされています。

ブログ「日永動物病院の日々徒然なるままに」
ameblo.jp/hinaga-ah

ホームページ「日永動物病院」
www2.cty-net.ne.jp/~hinaga-ah

木曾岬干拓地のさらなる開発の危険

桑名市 近藤 義孝

木曾岬干拓地とは

木曾岬干拓地は三重県と愛知県にまたがる443haの干拓地で、東海地方ではただひとつのチュウヒの安定した繁殖地です。もともと木曾川河口の干潟を堤防で囲み、排水してできた農業用地ですが、農地への転用が無理と判断され、原野のまま放置されました。その後、三重県により、アセスメントが2001年度から行われ、北部に盛り土をし、ストックヤードは野外探検広場等になっています。さらにその南にはメガソーラーが設置されました。それでもチュウヒはその後もそれらの施設より南の原野部分で繁殖しつづけています。



木曾岬干拓地のさらなる開発の危険

本年（2017年）7月、三重県の木曾岬干拓地担当者の話によると三重県のプロジェクト[木曾岬干拓地整備事業]に沿って干拓地のさらに南部を開発予定とのことです。そのために新たにアセスメントを実施する予定であるとのこと。前回のアセスメントでは173.7haが対象となっていたため、残りの部分を対象としたアセスメントになります。アセスメントといっても前回のアセスメント（2001年—2005年）の事後調査が行われているため、今回は実地調査等を省略した簡略なものになる可能性も否定できません。

木曾岬干拓地でのチュウヒ繁殖の現状

これまでの調査では木曾岬干拓地でチュウヒは最大3つがいが繁殖に成功しています。現在木曾岬干拓地のチュウヒは近年、北部が工事中あるい

はメガソーラーになったので、それより南部の原野で繁殖しています。この部分は上記整備事業の開発予定地域です。三重県はさらに干拓地南端に保全区と称して遊水地、葦原などを作りました。三重県は木曾岬干拓地アセスメントの準備書の公聴会で、保全区で3つがいの繁殖が可能と言いましたが、実際はその後、保全区では一度も繁殖していません。ですので、保全区以外が開発して良いとの論理は通らないことは明らかです。当該干拓地のさらなる開発はチュウヒの繁殖を全く不可能にするものと判断されます。

日本におけるチュウヒ繁殖個体群の現状

チュウヒは、現在環境省の「絶滅の恐れのある種の保全法」で、指定種にランクアップされようとしています。これはチュウヒの営巣期における国内の繁殖つがい数が80～90つがい、個体数は300～450羽と推定されており（環境省編チュウヒ保護の進め方 2014）、環境省レッドリスト2015においては絶滅危惧I B類に位置づけられています。

さらにかつてチュウヒが多数繁殖していた石川県河北潟でも繁殖が困難になり、岡山県の塩田跡地のようにより開発により繁殖できなくなった場所も多数あることを考慮したものと考えられます。

私たちはこれ以上の木曾岬干拓地の

開発に断固反対します。

このことは日本で国を挙げてチュウヒの繁殖を守ることが必須になっていることを示しています。しかし、三重県はそれに反して、干拓地のチュウヒ繁殖地を開発しようとしているのです。私たちはこれ以上の木曾岬干拓地の開発に断固反対します。

三重県のプロジェクト[木曾岬干拓地整備事業]を全面的に見直し、木曾岬干拓地の未開発部分全面をチュウヒの繁殖地として保護する計画を新たに策定すべきです。



チュウヒサミットのご案内

生物多様性条約第10回締結国会議が名古屋で2010年に開催されました。そのパートナーシップ事業としてチュウヒサミット2010が開催されて7年が経ちました。絶滅危惧種のチュウヒの生態研究などは進みました。しかし、各地におけるチュウヒの生息環境はより厳しい状況のようです。この集会では、最新のチュウヒに関する研究などを紹介し、チュウヒの保護に役立てます。

なお、このチュウヒサミット2017は日本鳥学会津戸基金の助成を受けて開催されます。

日時 2017年11月18日(土) 10時から17時 終了後、懇親会を予定しています。
場所 名古屋市立大学 桜山キャンパス 医学研究科・医学部研究棟 11階講義室大
テーマ 日本国内におけるチュウヒの生態とその保護の進め方について
参加対象 チュウヒに興味のある方はどなたでも参加できます
参加費 無料 ただし、資料が必要な方には資料代の負担をお願いします(1,000円程度)
内容

多田英行(日本国内におけるチュウヒの生態について)
先崎啓究(北海道におけるチュウヒの生態について)
浦 達也(環境省作成の『チュウヒの保護の進め方』について)
各地のチュウヒ繁殖地からの報告
チュウヒの生態についてのポスター発表(午前10時~12時)

午前に行うポスター発表の募集します。

形式は日本鳥学会でのポスター発表の要項に準じます。
(ポスターはA0サイズ(横841mm×縦1189mm)以内になるようご用意ください)

午後に行う各地のチュウヒ繁殖地からの報告も募集します。

ポスター発表、チュウヒ繁殖地からの報告を希望される方は、
下記のアドレスに申し込みをお願いします。
申込先 日本野鳥の会三重 近藤義孝 Eメール fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

追加情報などの詳細については、順次当会のHPで紹介します。

主催 日本野鳥の会愛知県支部
日本野鳥の会三重
名古屋鳥類調査会
共催 公益財団法人日本野鳥の会
後援 環境省
愛知県 三重県

事務担当(連絡先)
日本野鳥の会三重 副代表 近藤義孝
〒511-0123
三重県桑名市多度町北猪飼 521
Tel. 0594-48-4360
携帯電話 090-7431-0563



チュウヒサミット2017

2017年11月18日(土) 10時~17時
名古屋市立大学 桜山キャンパス研究棟 11階講義室大
テーマ 「日本国内におけるチュウヒの生態と
その保護の進め方について」
参加対象 チュウヒに興味のある方はどなたでも参加できます
参加費 無料 ※資料が必要な方には資料代
(¥1,000程度)の負担をお願いします
会場へのアクセス
地下鉄桜通線 桜山駅下車③出口を出てすぐ
詳細はHPで
<https://miebird.org>
主催 日本野鳥の会愛知県支部 日本野鳥の会三重 名古屋鳥類調査会
共催 公益財団法人日本野鳥の会
後援 愛知県、三重県
※このチュウヒサミット2017は日本鳥学会津戸基金の助成を受けて開催されます

宿泊探鳥会・ 木曾御嶽山麓と田の原天然公園へ

度会郡度会町 小坂 里香

いつものマイフィールドでの野鳥観察もいいけれど、たまには遠いフィールド、有名探鳥地へも足を伸ばしてみたい、自分で遠くまで運転してでかけるのは難しい、一緒に旅行する野鳥好きの仲間がほしい、ついでに、「ちょっと一杯」で親睦も深めたい。

そんな会員ニーズにお応えする野鳥の会三重・オリジナルの宿泊探鳥会。断続的に回を重ねて、今年はこの6月10日、11日の土日に、木曾御嶽方面へと出かけてまいりました。

メンバーは男女取り混ぜて27名。順次松阪、津、桑名駅前の集合場所から、チャーターしたバスに乗り込み、無事全員そろって出発です。

前職はバスガイドさんかと思まがう中村洋子さん、テキパキした岡八智子さん両幹事のお世話で、各自の自己紹介などに耳を傾けつつ、途中で仕入れたお弁当など食べながら、バスは高速を降り急坂を上って山の中へ、高度を上げていきます。

午前中はお天気も良好。道々の新緑がきれいです。しかし何たること、徐々に空は曇り、ホシガラスが、メボソムシクイが〜！！と、期待の田の原天然公園に着くころには雨がバラバラと。目の前に御嶽山を仰ぎ見て、何とか視界はあるものの、さ、さ、寒い！さすが高山地帯、下界と気温がまったく違います。

そそくさと雨具を着込み、ダウンなどを仕込み、公園の木道を歩くグループ、逆方向の山の方に上っていく巡礼者のようなグループに分かれて探鳥開始です。



御嶽は2年前に大きな噴火があり、現在登山禁止になっていますが、天然公園の木道から「遙拝所」までは規制がかかっていません。あの山頂で…と、噴火の犠牲になったたくさんの方々を思うと、自ずと頭が下がります。

何となく寡黙になりつつ、ハイマツの間の遊歩道を「遙拝所」に向かってトボトボ進んでいく木道組。ホシガラス、メボソムシクイ、カヤクグリ、と念仏を唱えても、答えるのは風の音ばかり。かすかに鳥とも虫ともつかぬ声は聞こえても、正体は不明のままです。



ホオアカ

しかし、鳥屋は現金なもので、しょぼくれているところに山組から「ルリビタキがスキー場に！」の一報が入り、喜び勇んで引き返し、山道を駆け上って行きます。スキー場につきスコープを並べて斜面をちよろちよろしているルリビタキやホオアカを眺めると、皆ご機嫌が戻りました。

天気は回復することなく、早々に観察を切り上げてバスへ。宿に向かいます。

旅の宿はレトロなムード漂うホテル木曾温泉。まあまあ一杯、二杯、三杯、と、酌み交わし酌み交わし、人によっては食事の後も酌み交わし続け、温泉もいただきまして、やはり家のクビキを逃れてお泊りはいいですね。私も、普段お話しする機会の少ない同室の方と色々話しこんだりして、楽しい夜をすごしました。

しかしいくらかし召しても、そこはさすがに探鳥目的の旅、翌朝5時半には皆さんキリリとしたお顔で宿の前に集合です。



2日目の最初は徒歩で宿周辺を探索。宿の前の森がなかなか良くて、キビタキ、オオルリ、クロツグミの囀りに耳をすまし、サンショウクイの姿を追い、コガラが餌をとっているのを観察したり、樹木や草本の名前をあだこうだ言いながら写真を撮りながら歩いたりして、探鳥会らしい早朝散歩となりました。

ノスリのつがい



また、宿のすぐ前で、ノスリのつがいらしい2羽がソアリングするのをしばし観察。三重県ではあまり繁殖期のノスリは見られないので、皆喜んでじっくり見ていました。

他にもサンショウクイの営巣を確認したりして、昨日の無念を取り返したように皆元気になりました。

チェックアウト後はバスで移動し、山麓の別荘地周辺でふたたび小鳥類などを探します。

しかし、何とということでしょう、空は晴れ渡り、御嶽も美しくくっきりと青空に映えています。これが昨日だったらなあ～、と恨めしくても仕方がないので、とりあえず、御嶽をバックに記念写真をパチリ。

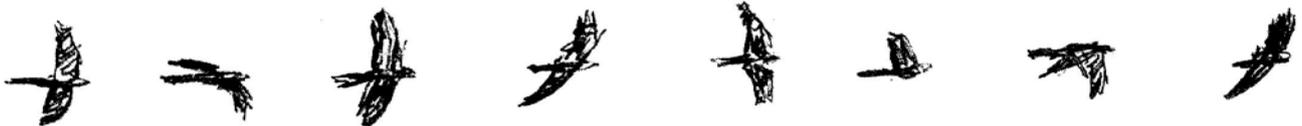
ひとしきり観察し、昼食は、木曾馬の里おみやげ・お食事センターへ。

名物開田そばなどをいただき、人によってはビールなどもチョイスして、またご機嫌になりつつ、帰途につきました。

今回私にとっては初めて団体宿泊探鳥会に参加させていただきましたが、鳥が出るかどうかは天候と運しだいです。見られたらラッキー、見られなくても、和気あいあいと鳥談義をしたり植物や蝶などの昆虫を観察したりして、知恵を分け合っ、それはそれでまた楽しい旅でした。

同時に、幹事さんのたいへんさもよくわかりました。どうもありがとうございました！

幹事さんの苦勞に報いるには、文句を言わず、集団行動のマナーを守って参加することですね(笑)



事務局だより

活動の記録 (2017年6月～8月)

- 6/ 7 四日市市役所・記者クラブへ出向き、足見川臨時探鳥会の案内を手渡した
- 6/18 足見川臨時探鳥会
- 7/ 6 会報「しろちどり第92号」発行・発送作業
- 7/14 河芸マリーナヘコアジサシ繁殖保護を申し入れた
- 7/26 環境省へ「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令(案)」による改正内容(国内希少野生動植物種の指定及び解除)に対する意見書を提出
- 8/ 1 四日市足見川メガソーラー事業に係る環境影響評価説明会に参加

シギ・チドリの年齢・季節による羽衣の変化

— 連載第9回 チュウシャクシギとコシャクシギ —

津市 今井 光昌

シギ科ダイシャクシギ属の鳥を総称して杓嶋(シャクシギ)と呼ぶことがあります。杓嶋は嘴が長く下方に湾曲しているのが特徴で、ダイシャクシギ(大杓嶋)、チュウシャクシギ(中杓嶋)、コシャクシギ(小杓嶋)、ホウロクシギ(焙烙嶋)、ハリモモチュウシャクシギ(針腿中杓嶋)等があります。三重

県にも上述の5種が渡来しています。ただ、ハリモモチュウシャクシギは松坂市で1978年9月に成鳥1個体が記録されているだけです。

今回は杓嶋の中でチュウシャクシギとコシャクシギを取り上げました。

渡りの時期

チュウシャクシギは旅鳥で春と秋に渡ってきますが、秋より春の方が多く、春には百羽以上の群れを見ることができます。チュウシャクシギの春の渡りは、ホウロクシギやダイシャクシギの渡りが3月中旬なのに対し、それより遅い4月になります。

秋の渡りはホウロクシギなどより早い7月中旬頃ですが、早期に渡ってくるのは成鳥で渡来数も少数です。三重県中部では7月中旬から8月にかけて渡りの成鳥と越冬していた成鳥を見ますが、9月初旬迄には渡去してしまいます。9月中旬以降は翌4月迄までチュウシャクシギの成鳥を見ることがありません。そのため、チュウシャクシギの完全な冬羽個体は見られず、夏羽後期の羽衣か冬羽に換羽中

の羽衣しか見ることはできません。

8月下旬には幼鳥が渡来します。幼鳥は成鳥より遅くまで残りますがそれでも10月初旬には旅立ちます。それ故、成鳥冬羽だけでなく第1回冬羽に出会うこともありません。杓嶋ではダイシャクシギだけが松阪市の河口干潟で毎年越冬しますが、チュウシャクシギの越冬はこれまで見たことがありません。

杓嶋の中でチュウシャクシギとよく似たコシャクシギは稀な旅鳥として日本各地で春と秋に記録されています。三重県でもごく稀に農耕地や草地などで観察されますが、すぐに抜けることが多く、出会いは限られます。

基本的な比較

コシャクシギはチュウシャクシギに比べて体が一回り小さく、嘴は短くて基部が細い。嘴の下方への湾曲も小さく、先の方が少し下方に曲がっているだけです。眉斑は淡色で幅が広く、眼先の褐色部が小さいので顔がチュウシャクシギよりも白っぽく見えます。

図3、図4はチュウシャクシギとコシャクシギの成鳥夏羽ですが、飛翔時には年齢に関係なくチュウシャクシギは背から腰の上部が白く見え、コシャクシギは背と腰に黒褐色の斑があるため白く見えません。チュウシャクシギは風切に横斑がありますがコシャクシギの風切は無斑です。



図1 チュウシャクシギ幼鳥 2014.10.11



図2 コシャクシギ幼鳥 2015.11.06



図 3a チュウシャクシギ 2011.05.07



図 4a コシャクシギ 2011.04.26



図 3b チュウシャクシギ 2012.04.24



図 4b コシャクシギ 2011.04.26

幼鳥の比較

図5のチュウシャクシギ幼鳥は三列風切の淡色斑が幼鳥の特徴である三角形をしています。図6のコシャクシギも三列風切の淡色斑が三角斑であることから幼鳥と考えられます。成鳥はこの斑が長方

形に見えます。

両種の相違点は多いですが、チュウシャクシギも幼鳥は嘴が短いのでコシャクシギとよく似て見えることもあり注意が必要です。



図 5 チュウシャクシギ幼鳥 2012.09.26



図 6 コシャクシギ幼鳥 2015.11.06

成鳥夏羽の比較

図7のチュウシャクシギは整った綺麗な羽衣をしています。目立つような摩耗もなく、夏羽の完成度が高い成鳥の羽衣と言えるでしょう。チュウシャクシギの幼鳥と成鳥の識別は嘴の長短も加味して考えますが、幼鳥の嘴が伸長し、成鳥と変わらなくなってくると、幼羽と成鳥羽が似通っているので年齢識別が難しくなります。

成鳥は夏羽から冬羽の換羽は全換羽ですが、幼羽から第1回冬羽の換羽では雨覆や三列風切に幼羽が残ります。幼羽は成鳥羽に比べ軟らかいため摩耗に弱く、第1回冬羽で換羽せず残っている幼羽は成鳥羽に比べ摩耗しているはずで、それ故、擦れの激しい羽があるかどうか第1回夏羽と成鳥夏羽

の識別の目安になります。そのような目で図8のコシャクシギを見ても、成鳥夏羽なのか、第1回夏羽なのか迷います。新しい夏羽、摩耗が見られる冬羽、激しく摩耗している幼羽が混在していれば、第1回夏羽と判断ができるのですが、詳細な部分を確認できる写真が撮れていません。

チュウシャクシギとコシャクシギは共に旅鳥ですが一方は渡来数が多く、一方は稀な旅鳥です。しかも両種とも三重県では冬羽個体が見られないため、両種を比較できる画像が幼鳥と夏羽に限られてしまいました。体の大小と嘴の長短・曲がり具合がこの2種の最も大きな相違点です。小さなチュウシャクシギだと思った時は注意して見るようにしましょう。



図7 チュウシャクシギ 2011.05.07



図8 コシャクシギ 2011.04.25



図9 コシャクシギ (左) とチュウシャクシギ (右) 2011.04.25

チュウシャクシギ 成鳥夏羽と第1回夏羽

図10と図11は同じ4月21日撮影のチュウシャクシギですが、図11の個体の方が雨覆・三列風切の摩耗が目立ちます。図10の個体も摩耗は見られますが軽い摩耗で、幼羽でなく冬羽と考えられ、成鳥夏羽と判断できます。図11の個体は雨覆・三列風切の摩耗が図10の個体より激しいことで、摩耗

した幼羽が残る第1回夏羽と判断しました。

図12は5月7日のチュウシャクシギ成鳥夏羽です。図10の4月21日の成鳥夏羽と比べると夏羽への換羽が一段と進み綺麗な羽衣です。図10の段階ではまだ夏羽に換羽中で、ほぼ成鳥夏羽とするのが正しいのかもしれませんが。図13は5月31日の



図 10 成鳥夏羽 2011.04.21



図 11 第 1 回夏羽 2007.04.21



図 12 成鳥夏羽 2010.05.07



図 13 第 1 回夏羽 2008.05.31

第 1 回夏羽です。肩羽は夏羽に換羽が終わっていますが、雨覆・三列風切の多くに摩耗した幼羽が残っています。図 12 の成鳥夏羽と図 13 の第 1 回夏羽で

は摩耗に歴然とした差があります。図 13 が成鳥夏羽ならこのような摩耗は普通では考えられません。

チュウシャクシギの求愛ディスプレイ

求愛ディスプレイとは求愛する際に行なう仕草で、近郊で繁殖する鳥たちの求愛ディスプレイは眼にする機会もあると思いますが、渡りのシギも求愛ディスプレイを見せてくれることがあります。図 14 では雌は前傾姿勢で尾羽を開くポーズをとり、雄は雌の後ろで翼を広げる求愛のポーズをとっています。

最後に

日本に普通に渡来しているチュウシャクシギの背・腰は白いですが、背・腰が褐色の北米産亜種 *N.p.hudsonicus* が渡来している可能性があります。飛翔時には背・腰の色を注意して見てみましょう。



図 14 2015.04.27

鈴鹿市主催探鳥会の記録

鈴鹿市主催の探鳥会記録です。青少年の森での探鳥会記録は前号、92号に掲載しました。ここにはその他の探鳥会記録を掲載します。

2013年11月9日 10:00-12:00

鈴鹿市八野町 深谷公園 晴れ
参加者 30名

ヒドリガモ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ジョウビタキ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ 計11種

2013年11月27日 10:00-12:00

鈴鹿市岸岡町 海のみえる岸岡山緑地 晴れ
参加者 20名

カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、オオタカ、コゲラ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、アオジ、カモメ類、ドバト、計23種

2014年5月25日 10:00-12:00

鈴鹿市山本町 椿大神社 晴れ
リーダー 市川美代子 参加者 22名

トビ、コゲラ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、キビタキ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、計14種

2014年12月14日 11:20-12:40

鈴鹿市寺家 鼓ヶ浦海岸付近 晴れ
リーダー 藤井英紀 参加者 19名

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、スズガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、コサギ、シロチドリ、ユリカモメ、カモメ、ミサゴ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ドバト 計25種

2015年6月7日 10:00-12:00

鈴鹿市八野町 深谷公園 曇
リーダー 藤井英紀 参加者 約50名

ホトトギス、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、キビタキ、スズメ、ドバト 計14種

2015年10月18日 10:00-12:00

鈴鹿市岸岡町 海のみえる岸岡山緑地 晴れ
リーダー 藤井英紀 参加者 30名

コガモ、キジバト、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、スズメ、ハクセキレイ 計10種

2016年2月7日 10:00-12:00

鈴鹿市八野町 深谷公園 晴れ
リーダー 藤井英紀 参加者 30名

カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、カワラヒワ、イカル 計12種

2016年5月29日 10:00-12:00

鈴鹿市岸岡町 海のみえる岸岡山緑地 晴れ
リーダー 藤井英紀 参加者 24名

キジバト、カワウ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、スズメ 計10種

2016年10月23日 10:00-12:00

鈴鹿市岸岡町 海のみえる岸岡山緑地 晴れ時々曇

リーダー 藤井英紀 参加者 20名

キジバト、ミサゴ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ジョウビタキ、スズメ、カワラヒワ、ドバト 計14種

2017年6月11日 10:00-11:45

鈴鹿市岸岡町 海のみえる岸岡山緑地
リーダー 市川美代子 参加者 25名

キジバト、カワウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、ドバト 計12種



追加探鳥会

● 10月29日(日) 鈴鹿市野鳥観察会 小雨決行!

見どころ／自然林が多く残っており、小鳥がたくさん見られます。

開催地／鈴鹿市 県営鈴鹿青少年の森(鈴鹿市住吉町 TEL059-378-2946)

集合／10:00 管理事務所前(プレハブの建物) 解散／12:00 集合場所

交通／公共交通機関：伊勢鉄道「鈴鹿サーキット稲生」駅より徒歩35分

三重交通バス「青少年の森口」下車

自家用車：国道23号線「寺家五」交差点を西へ 約15分

持ち物／双眼鏡・水筒・帽子・筆記用具

コース上のトイレ／あり

共催／鈴鹿市

参加予約／**申し込み必要 受付：10/5(木)～20(金)までに**

鈴鹿市環境政策課 TEL 059-382-7954 (岡田)

FAX 059-382-2214

Email kankyoseisaku@city.suzuka.lg.jp

※申し込み時に、住所・氏名・電話番号・参加人数を電話・ファックスまたは電子メールでお伝えください。申し込みされた方には、鈴鹿市から詳しい案内書が送られます。

参加費／無料

備考／子ども連れでの参加可

問い合わせ／藤井 英紀 090-5454-3409 市川 美代子 0593-74-1887

今後の探鳥会予定 (詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください)

● 10月1日(日) 相津峠タカ渡り探鳥会

開催地／松阪市飯南町 相津峠

集合／8:30 道の駅「茶倉」駐車場 解散／13:30 現地(相津峠)

● 10月1日(日) みつえ高原タカ渡り探鳥会 【参加予約必要】

開催地／奈良県御杖村 みつえ高原牧場

集合／8:00 近鉄名張駅西口前 解散／12:00 現地

【申し込み先】 田中 豊成 090-4088-3164



● 10月2日(月) 香良洲海岸探鳥会

開催地／津市香良洲町 香良洲海岸・雲出川河口左岸

集合／13:00 香良洲公園駐車場 解散／15:00 集合地

● 10月7日(土) 答志島タカ渡り探鳥会 *会員のみ【参加予約必要】

開催地／鳥羽市 答志島(定期船で渡ります)

集合／7:30 鳥羽市佐田浜マリンターミナル(8時乗船) 解散／11:30 答志島和具港

【申し込み先】 小坂 里香 090-6097-3283

● 10月8日(日) 市木川及び田んぼ探鳥会

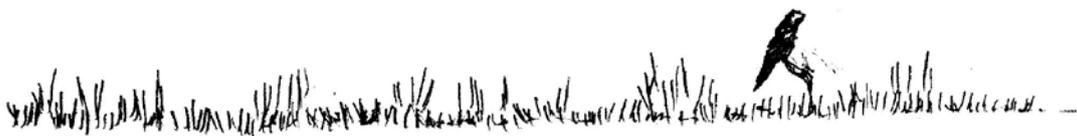
開催地／南牟婁郡御浜町 市木

集合／9:00 道の駅「パーク七里御浜」 解散／12:00 市木川河口

- 10月22日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
開催地/愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
集合/9:00 弥富野鳥園 解散/12:00 集合地
- 11月5日(日) 中村川探鳥会 少雨決行!
開催地/松阪市嬉野一志町 中村川流域
集合/9:30 サークルK 駐車場(「中川駅北1」信号近く) 解散/11:30 現地
- 11月12日(日) 安濃川河口探鳥会
開催地/津市高洲町 安濃川河口
集合/10:00 安濃川河口 右岸の先端 東屋 解散/12:00 現地
- 11月18日(土) 三滝川観察会 少雨決行!
開催地/三重郡菰野町 三滝川河川敷
集合/9:30 大羽根グランド駐車場 解散/12:00 現地
- 11月23日(木・祝) 海蔵川探鳥会
開催地/四日市市西坂部町 海蔵川沿い
集合/9:40 海蔵川代官橋 北詰 解散/12:00 集合地
- 11月26日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
内容は、10月22日(日)と同じです。
- 12月10日(日) 員弁川探鳥会
開催地/いなべ市員弁町 員弁川周辺
集合/9:00 県立いなべ総合学園高等学校駐車場 解散/12:00 集合地
- 12月10日(日) ベルファーム探鳥会
開催地/松阪市伊勢寺町 松阪市農業公園ベルファーム
集合/9:30 ベルファーム 匠の館前 解散/12:00 現地
- 12月17日(日) 磯部川水系探鳥会 少雨決行!
開催地/志摩市磯部町穴川 穴川~迫間~下之郷
集合/9:30 志摩市磯部町穴川公民館 解散/11:30 集合地
- 12月17日(日) 身近な冬鳥を観察しよう **【参加予約必要】**
開催地/津市一身田上津部田 三重県総合博物館周辺の溜池、おおさん池 等
集合/9:30 解散/11:15
【申し込み先】 三重県総合博物館 (MieMu) Tel :059-228-2283
- 12月24日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!
内容は、10月22日(日)と同じです。



ヒヨドリ



野鳥記録 (2017年5月31日から8月10日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察年月日 2017年	観察場所 (三重県)	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者名	脚注
ツバメチドリ	1	5月17日	御浜町志原	成鳥夏羽	中井 節二	1
シマアオジ	1	5月29日	御浜町市木	雄夏羽	中井 節二	2
コムクドリ	1	6月 2日	御浜町市木	雄成鳥	中井 節二	3
カラムクドリ	1	6月 2日	御浜町市木	雌成鳥	中井 節二	4
アカショウビン	1	6月24日	大台町相津峠	雄	西村 四郎	5
コアジサシ	100	7月 1日	津市河芸マリーナ		唐津 敏明	6
ノスリ	2	5月30日	菰野町三重県民の森	つがい	笹間 俊秋	7
ブッポウソウ	1	6月 1日	菰野町三重県民の森		松下 敏信	8
アカガシラサギ	1	6月 5日	鈴鹿市若松の水田	成鳥夏羽	伊藤 登喜男	9
ハチクマ	1	6月15日	四日市市山田町足見川		笹間 俊秋	10
サシバ	2	7月 5日	四日市市山田町足見川	幼鳥2羽	笹間 俊秋	11
カルガモ	8	7月26日	三重郡菰野町三滝川	雌と幼鳥7	矢田 栄史	12
ホトトギス	1	8月 2日	三重郡菰野町三滝川		矢田 栄史	13
セイタカシギ	9	4月11日	名張市東町	10日間滞在	朝倉 啓介	14
コマドリ	数羽	4月20日	名張市赤目町	1週間ほど滞在	田中 豊成	15
ミゾゴイ	1	5月10日	名張市青蓮寺		田中 豊成	16
アカガシラサギ	1	5月18日	名張市東町	5日間滞在	朝倉 啓介	17
タマシギ	2	5月 8日	志摩市磯部町下之郷	雌雄各1羽	森口 道夫	
セイタカシギ	11	4月17日	伊勢市松村町	19日には9羽	中村 悦子	

脚注：

1. 今年のツバメチドリは、滞在期間が短く1日で抜けていました。三重県側では、合計で7羽だった。
2. チッチッと鳴いてきて目の前に飛んできました。顔が黒くて頭から背中茶色で胸は黄色かった。一瞬何かなど思いました。すぐシマアオジとわかりましたがほんの1分の出会いです。
3. 6月にコムクドリを見たのは初めてで、遅い記録です。尚5月21日にもメスを1羽見えています。
4. 6月にカラムクドリは初確認だった。
5. 声はすれど・・・のアカショウビンですが、近くに止まってくれました。嘴を少しあけて、しきりに囀っていました。
6. 造成が終了したばかりで7/1は、100羽くらい羽を休めているだけでした。7/11には数十組の抱卵の姿がありました。7/13から10日間観察できません、土日を含み海水浴等の駐車場に開放される事があれば残念な結果になる恐れがある。
7. 林道を歩いていると、上空をつがいで鳴きながらディスプレイ飛行をしていました。この近くで営巣しているのかもしれませんが。
8. 笹間 俊秋さん代理投稿。展望台広場から見える枯れ木にとまっているのを確認し撮影しました。
9. 笹間 俊秋さん代理投稿。自宅付近の水田にて休んでいる見かけないサギがいたため撮影しました。
10. 水田から丘陵地を観察していると、放棄された茶畑周辺より飛翔してきた猛禽類がいたため撮影した。
11. サシバの営巣地を観察していたら、枯れ木におぼつかない感じで、いかにも巣立ち直後という姿で木にとまっていた。
12. 7月17日夕方、500mほど下流で初めて8羽を目撃した。成長するにつれて活発になり親鳥の警戒心も少しなくなってきたもよう。

- 13. 毎朝の観察で河川敷を歩いているとやや、大きめの鳥が少し離れた木にとまる。葉かげのためまったく姿は見えない。少しすると飛んだ、ホトトギス対岸の大きなヤナギにとまる。なんとか撮影した。
- 14. 田中 豊成さん代理投稿、名張では初記録。
- 15. 毎年決まった山林に、数羽が1週間ほど滞在する。
- 16. 発見者：田中 豊成さん。
- 17. 田中 豊成さん代理投稿、名張で初記録。



ツバメチドリ：中井 節二 撮影



シマアオジ：中井 節二 撮影



カラムクドリ：中井 節二 撮影



コムクドリ♂：中井 節二 撮影



コアジサシ：唐津 敏明 撮影



アカショウビン：西村 四郎 撮影



ハチクマ：笹間 俊秋 撮影



ブッコウソウ：松下 敏信 撮影



コマドリ♂：田中 豊成 撮影



アカガシラサギ：伊藤 登喜男 撮影



アカガシラサギ：朝倉 啓介 撮影



ミゾゴイ：田中 豊成 撮影

探鳥会報告 (2017年5月～8月)

●上野森林公園 Two Round(ツーラウンド) 探鳥会

2017年5月7日(日) 6:30～11:30

伊賀市下友生 三重県上野森林公園

共催団体 / 上野森林公園・三重県環境学習センター

前澤 昭彦 玉田 浩司 参加者 39名(会員7名)

キジ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、トビ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、イソヒヨドリ、コサメビタキ、キビタキ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ 計28種

6時30分スタートの1回目のラウンドでは、キビタキ、コサメビタキ、ホオジロのさえずりを楽しみました。

9時30分スタートの時は、エナガの子育てやコサメビタキをじっくりと観察しました。

早朝探鳥会はやっぱり鳥の出現率が高く、ほとんどの参加者は2回コースを回ってくれました。

●鈴鹿川派川探鳥会

2017年5月7日(日) 10:00～11:30

四日市市楠町南五味塚

安藤 宣朗 参加者 13名(会員13名)

キジ、カルガモ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、カッコウ、シロチドリ、メダイチドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、イソシギ、ハチクマ、カワセミ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ホオジロ 計26種

快晴なれど、時折スコープが倒れる程の強風があったが、13名の参加者と共にゆっくりと河口の突堤を中心に探鳥した。京都や名古屋からの参加者もあり、ここ鈴鹿川派川がシギ・チドリの観察ポイントとして良く知られており、大切にしたいフィールドである。多数のチュウシャクシギの中に1羽のオオソリハシシギやキアシシギ、アオアシシギ、夏羽のメダイチドリ、ヨシ原で喧しく鳴くオオヨシキリを観ながら春の干潟を楽しんだ。

今日の目玉は、夏羽のオオソリハシシギ 観察種は26種類でした。

●香良洲海岸探鳥会

2017年5月8日(月) 13:00～15:00

津市香良洲町 香良洲海岸雲出川河口

今井 光昌 今井 鈴子 参加者 11名(会員10名)

カルガモ、コガモ、スズガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ダイゼン、シロチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、キョウジョシギ、オバシギ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計29種

穏やかな日和でした。春の渡りの時期だということに雲出川河口には全くといっていいほどシギ・チドリが寄りつかない日が続いていましたが、探鳥会が始まるとミヤコドリ72羽、ミユビシギ100以上が集まってきました。

ハマシギやオオソリハシシギ、オバシギなど8種類のシギが見られ、今日も何もいないのはいかど心配しましたが、楽しい探鳥会を過ごしていただけたと思います。

●海蔵川探鳥会

2017年5月9日(火) 9:45～11:45

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬 裕之 参加者 7名(会員7名)

カルガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ダイサギ、サシバ、カワセミ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計20種

どんよりとした曇り空のなか、今年度最初の探鳥会の開始となりました。

川面を見るとまだキンクロハジロが居残って出迎えてくれました。天気の影響かあまり鳥の鳴き声が聞こえてきません。右岸側に移動したら海蔵川のアイドル、カワセミが「ピー」という鳴き声と姿をみせてくれました。最後の方で遠くに猛禽が居るのを参加者の方が見つけてハヤブサ?と皆さんで話してましたら、探鳥会終了後再び現れたのではっきり姿を確認しましたらサシバでした。

季節の変わり目なのか、いつもよりちょっと鳥の姿を見る事が出来なかったのが残念でした。



●野登山探鳥会

2017年5月14日(日) 9:00～16:00

亀山市安坂山町 野登山

辻 秀之 近藤 義孝 参加者 21名(会員 14名)

キジバト、アオサギ、ジュウイチ、ツツドリ、トビ、サシバ、コゲラ、アオゲラ、チョウゲンボウ、サンコウチョウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、メジロ、ミソサザイ、ムクドリ、カワガラス、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ 計 35種

初めての野登山での探鳥会は、21名もの参加を頂いた。

坂本の棚田からコースタイム2時間ほどの山道を、頂上の野登寺目ざして山道を行くが、杉の植林の中、涼しく歩くことができた。

野登寺周辺のブナ林では野鳥の影が濃く、クロツグミやオオルリ、キビタキなどの夏鳥、ヒガラやミソサザイなど山の小鳥のさえずり、国見の立場では大展望の中、遠くジュウイチの声を聞くことができた。

●おはらい町ツバメ探鳥会

2017年5月14日(日) 8:00～10:00

伊勢市おはらい町

西村 泉 中西 章 参加者 15名(会員 8名)

カワウ、イソシギ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ウグイス、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ドバト 計 14種

菓子博の影響で内宮への交通規制がありました。そのせいか思ったより参加が少なかったものの、その分和気あいあいと探鳥することができました。

おはらい町の通りではツバメを真近かで見たり、お店の人からツバメの子育てを見守るお話を聞きました。途中から、五十鈴川沿いに出てイソシギやイソヒヨドリを観察しました。

参加者からは「町の人たちがツバメを大事にしていることが印象深くほっこりしました」また東京から参加された本部の方は「のんびりとした探鳥会が新鮮で楽しかったです」との感想をいただきました。

●金剛川河口探鳥会

2017年5月15日(月) 9:30～11:30

松阪市高須町 金剛川河口

中村 洋子 小野 新子 参加者 11名(会員 10名)

キジ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ケリ、ダイゼン、コチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、オバシギ、トウネン、ハマシギ、コアジサシ、トビ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、セグロセキレイ、カワラバト 計 34種

集合場所ではダイサギの目先が緑青色になっていたのを観察。

右岸堤防下の石積の上にキアシシギ、ソリハシシギがずらりと休んでいた。(この日の満潮は7:37でまだ水が満ちていた為)

河口の駐車場ではハマシギ、ダイゼンがそれぞれ腹や胸が黒くなっていて、冬羽との違いを見る事ができました。

ミヤコドリもたくさんいました。若鳥もいたから今年は越夏が多いかな・・・?

●三滝川探鳥会

2017年5月20日(日) 9:30～11:50

三重郡菟野町 三滝川河川敷

矢田 栄史 参加者 8名(会員 6名)

コサギ、イカルチドリ、カワセミ、コゲラ、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ 計 18種

晴れてとても暑い日になりました。開始早々に、エナガ19羽が近くの木にとまり、少しすると対岸へ順に飛んでゆくシーン。直後 同じエナガ10羽ほど。

鳥たちは子育ての時期です。巣立って間もない様子のスズメたち。

カワセミの声。ヒバリやウグイスのさえずりなど。「イカルチドリを初めて見た。」という人がいてよろこんでいただけました。



●木曾岬干拓地探鳥会

2017年5月28日(日) 9:00～12:00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会
笹間 俊秋 米倉 静 参加者13名(会員7名)

カルガモ(15)、キジバト(3)、カワウ(70)、アオサギ(8)、ダイサギ(5)、チュウサギ(1)、ケリ(10)、ハチクマ(4)、サシバ(1)、ノスリ(1)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(5)、ヒバリ(20)、ツバメ(10)、コシアカツバメ(2)、ヒヨドリ(1)、ウグイス(3)、セッカ(10)、ムクドリ(8)、スズメ(60)、ハクセキレイ(3)、カワラヒワ(11)、ホオジロ(3)、ドバト(10)、マガモ雑種(1) 計25種

この日はよく晴れて探鳥日和でしたが、気温が上がり鳥の数は25種類と少なめでした。例年なら干拓地でチュウヒが見られますが、この日は見られず。しかし、上空を4羽のハチクマとノスリ1羽が旋回していましたし、コシアカツバメも見ることが出来ました。

●倉骨岬探鳥会

2017年6月4日(日)8:00～14:00
津市美杉町太郎生 倉骨岬
田中 豊成 南 一朗 参加者14名(会員10名)

アオバト、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、ミソサザイ、クロツグミ、ウグイス、エゾムシクイ、キビタキ、オオルリ、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、イカル、カケス、ハシブトガラス 計23種

夏鳥が多かったです。カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、エゾムシクイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ等で、姿を見るのはやや難しかったです。緑の苔道で、気候も良く 爽やかな探鳥会が出来ました。



●田ノ原天然公園・開田高原 宿泊探鳥会

2017年6月10日(土)13:00～15:00
長野県木曾郡 王滝村 開田高原
中村 洋子 岡 八智子 参加者27名(会員27名)

キジ、ホトトギス、カッコウ、トビ、モズ、カケス、ハシボソガラス、キクイタダキ、ヒガラ、ツバメ、ウグイス、ルリビタキ、キセキレイ、ホオジロ、ホオアカ、メボソムシクイ 計16種

昨年に続き宿泊探鳥会です。

松阪・津・桑名 各駅前バスに乗り、木曾御岳山麓の田ノ原公園をめざす。田ノ原は小雨、寒くダウンを着る。二班に分かれ観察。雨なので鳥は見られませんが、メボソムシクイはさかんにさえずっている。三笠山麓のスキー場、林縁にルリビタキ・ホオアカを見ることが出来ました。

●長野県木曾郡 木曾町 開田高原

2017年6月11日(日)
中村 洋子 岡 八智子 参加者27名(会員27名)

キジ、キジバト、アオバト、ホトトギス、カッコウ、アマツバメ、トビ、ハイタカ、ノスリ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、モズ、カケス、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、イカル、ホオジロ 計31種

今日は快晴。御岳山がとてもきれいだ。部屋の窓を開けるとカッコウの音が聞こえてくる。早朝探鳥では宿の前の林へ入るが鳥は見られず、朝食後に宿の周辺で探鳥する。サンショウクイ・ノスリ等を観察。その後開田高原へ向かうが、ここは鳥が少なく、観察よりも山の景色に助けられました。

●足見川臨時探鳥会

2017年6月18日(日)10:00～12:00
四日市市山田町 足見川メガソーラー建設予定地の丘陵林および周辺の水田

安藤 宣朗 笹間 俊秋 参加者42名(会員18名)
カルガモ、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、アマツバメ、ケリ、サシバ、カワセミ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、セッカ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計21種

この臨時探鳥会は四日市市に計画されている広大なメガソーラー開発計画 (95ha) により、サシバやオオタカが生息する貴重な里山の崩壊や丘陵林の伐採による水害など自然破壊を来す危険があるため、その現場を皆さんで認識し、建設中止運動の一環として実施したもので、県内外地元の数 (42 名) の参加を得て実施した。

約 2 時間 周辺の川沿い 畦道を歩いて、丘陵林に生息するサシバを観察しながら、自然の大切さを実感した観察会であった。観察した鳥は 21 種

●木曾岬干拓地探鳥会

2017 年 6 月 25 日 (日) 9:00 ~ 11:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 12 名 (会員 11 名)

キジ (1)、カルガモ (40)、キジバト (12)、カワウ (50)、ゴイサギ (1)、アオサギ (10)、ダイサギ (5)、チュウサギ (3)、コサギ (2)、ケリ (10)、コチドリ (2)、ミサゴ (1)、チュウヒ (2)、ハシボソガラス (10)、ハシブトガラス (15)、シジュウカラ (1)、ヒバリ (15)、ツバメ (100)、ヒヨドリ (1)、ウグイス (2)、メジロ (1)、オオヨシキリ (3)、セッカ (5)、ムクドリ (100)、スズメ (20)、ハクセキレイ (4)、セグロセキレイ (1)、カワラヒワ (10)、ホオジロ (1)、ドバト (1) 計 30 種

前日から降り続いていた雨が探鳥会開始前にやみました。気象情報を見ている人が多いのか、梅雨の時期にしては 12 名とたくさんの参加者がありました。30 種観察でき、チュウヒも 2 羽でてくれました。

●木曾岬干拓地探鳥会

2017 年 7 月 23 日 (日) 9:00 ~ 12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 20 名 (会員 12 名)

キジ (5)、カルガモ (50)、キジバト (2)、カワウ (60)、アマサギ (2)、アオサギ (10)、ダイサギ (4)、チュウサギ (50)、コサギ (1)、ケリ (1)、コチドリ (1)、イソシギ (2)、ミサゴ (2)、チュウヒ (1)、ハシボソガラス (60)、ハシブトガラス (10)、シジュウカラ (2)、ヒバリ (5)、ツバメ (300)、ヒヨドリ (1)、ウグイス (1)、セッカ (5)、ムクドリ (100)、スズメ (100)、ハクセキレイ (5)、カワラヒワ (40)、ホオジロ (3)、ドバト (20) 計 28 種

熱中症が心配される梅雨明け後の探鳥会でしたが、曇っていて風も吹き何とか過ごせる日でした。参加者 20 名と、この時期の探鳥会としてたくさんの人が集まってくれました。繁殖期も終わり、先月は大声で叫んでいたケリも 1 羽だけ草の上で休んでいました。

●揖斐川ツバメねぐら入り探鳥会

2017 年 8 月 19 日 (日) 16:00 ~ 19:00

桑名市多度町福永

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 38 名 (会員 16 名)

カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ミサゴ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、カワラヒワ 計 13 種

16 時よりの開始は早すぎて、待ちわびること 2 時間 30 分、日没時間ころに約 1 万羽くらいのツバメがアシ原へ入った。長い時間待ただけに、みんな感動してもらえた。10 年前にも同じ場所で開催したときは数万羽見られたと書いてある。やはりツバメは減っているのだろうか。また、そのときは 17 時開始で早すぎたと書いてあった。来年は 17 時 30 分集合にしよう。

●木曾岬干拓地探鳥会

2017 年 8 月 27 日 (日) 9:00 ~ 12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体 / 愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤 義孝 笹間 俊秋 参加者 12 名 (会員 10 名)

イソシギ (3)、キセキレイ (1)、セグロセキレイ (2)、ハクセキレイ (5)、アオサギ (6)、ダイサギ (15)、アマサギ (10)、コサギ (1)、チュウサギ (50)、ケリ (2)、カワウ (50)、ヒバリ (3)、セッカ (5)、ミサゴ (5)、カルガモ (19)、カワラヒワ (12)、ヒヨドリ (1)、カワセミ (2)、ツバメ (1000)、ハシボソガラス (20)、ハシブトガラス (30)、ドバト (8)、キジバト (5)、スズメ (100)、ホオジロ (2) 計 25 種

真夏の探鳥会ですから、あまり鳥はいませんが、溜池で魚を探してミサゴが我々の上を何度も旋回してくれました。干拓地の上空を 1000 羽以上のツバメが飛びまわっていましたが、まだショウドウツバメは到着していませんでした。

原稿募集中

しろちどり編集部では会員からの原稿を随時募集しています。送付先は以下の通りです。

【e-mail】 post@miebird.org

【郵送】 〒514-2325

三重県津市安濃町田端上野 910 - 49
平井正志

なお、誌上では著者本人の名前で掲載するのが原則です。また、記事のレイアウトは編集部におまかせください。MSワードなどでレイアウトした原稿を送っていただいても、その通りに掲載できるとは限りません。レイアウトについて著者の要望があれば、お伝えください。なるべく、要望に沿える様にいたします。

しろちどり 92 号の記載の誤りに ついて

しろちどり 92 号にはいくつかの誤りがありました。誤りは以下の通りです。

- 1) 野鳥記録表の最後の 2 記録で種名が空白になっている。
- 2) 野鳥記録の写真には注番号が付されているが、記録表には以降の番号が付されておらず、対応が明確でない。
- 3) 名張の田中豊成氏から編集部へ寄せられていた野鳥記録が掲載されていない。
- 4) 探鳥会報告で矢田栄史氏の名前の記載が間違っていて「英史」と記載されている。

編集部ではそれぞれの誤りについてなぜ生じたかを論議し、今後このようなことがないように編集作業手順をいくつか変更、追加します。なお、

- 1) の 2 記録については種名そのものが明示されていないので、93 号 (p.17) で改めて掲載しました。
- 2) についてはこれまで、写真に注番号を付していなかったため、今後も注番号を付さずに、種名、撮影者名を記載します。
- 3) は編集部のミスであり、93 号で掲載しました。
- 4) については矢田さんに申し訳ないことをしました。お詫びいたします。記載のチェック体制を強化します。



メジロ

編集後記

編集が正式に 3 人態勢になったのは 90 号から。ようやくうまくやれるようになってきた感じ。このところその辺の苦労話だけでつまらないだろうから、今回はここまでにして少しは鳥の話を。

今井さんのシギ・チドリの記事は楽しみにしている方も多いと思うけれど、私もその一人。ちょうどこの原稿を書いている今は秋の渡りが始まる時期で、このところ毎週末に海岸へ行っている。今日はトウネンが 10 羽ほどいて、90 号で編集をしたヨロネン (ヨーロッパトウネン) の知識を元に双眼鏡を覗いてみた。さすがにヨロネンはいないようだった。

それにしてもトウネンは小さい。編集時には羽根の一枚一枚が見えるくらい拡大していたのだけれど、フィールドではそうはいかない。群れの中に違和感のあるものがあるかどうかということが重要だと思った。あと、まだとても暑い・・・今日は 8/26。 (A.M)

しろちどり 93 号

2017 年 9 月 25 日発行

題字: 濱田 稔

表紙絵: 田中 豊成

カット: 平井 正志

編集: 平井 正志・笹間 俊秋・三曾田 明

発行所: 日本野鳥の会三重

平井 正志 方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

<http://miebird.org/>

印刷: 株式会社プリントパック

617-0003 京都府向日市